

# CIS における REST データ ソースの JSON から表形式への変換

## 目次

### [概要](#)

### [データの変換](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Information Server ( CIS ) 内で JavaScript Object Notation ( JSON ) 形式のデータを表形式に変換するための基本手順を説明します。

## データの変換

Representational State Transfer ( REST ) データ ソースは、Web サービスから JSON または XML 形式でデータを取得します。データが JSON 形式であり、表形式に抽出可能な場合は、JSON データを XML 形式に変換できます。その後、CIS の表形式に変換するため、eXtensible Stylesheet Language ( XSL ) 変換機能を使用する必要があります。

REST データ ソースの JSON 形式のデータを表形式に変換するには、次の手順を実行します。

1. Studio をバージョン 6.2.3.00.22 パッチ以上にアップグレードします。これにより、新機能である **Design by Example** を利用できるようになります。この機能では、JSON 出力を表形式出力にマッピングできるようにする XSL Transformation ( XSLT ) プロシージャのスキーマを容易に取得できます。
2. REST データ ソースの作成時に、[JSON Format] チェックボックスをオンにします。

注: 次のステップは、データ ソース作成時または作成後に実行できます。

3. REST データ ソースをすでに作成している場合は、パネルで Header および Body パラメータ定義を見つけ、現在のパラメータ定義をすべて削除してから保存します。
4. [Design by Example] をクリックします。すでに作成されている場合はオペレーションビューに移動します。
5. JSON 構造の最上位要素 ( 一般にリストの最終行 ) を選択し、[OK] をクリックします。

6. パラメータに名前を指定し、[Save] をクリックします。

これにより、XML スキーマ定義セットが作成されます。この定義セットはデータ ソース リソースに表示されます。

これにより、JSON 出力が XML に変換されるため、XSL 変換機能で処理できるようになります。オペレーションを開き、出力構造を確認します。これは、XSLT プロシージャで使用される構造を示します。

7. JSON 出力を XML 形式に変換するためのオペレーションを実行します。

8. 新しい XSLT を作成し ( [New] > [Transformation] > [XSLT Transformation] )、REST データソース オペレーションにバインドします。

9. 表形式データで使用する列を選択し、XSLT を実行します。